平成二十六年三月

蟹江町歴史民俗資料館

年報

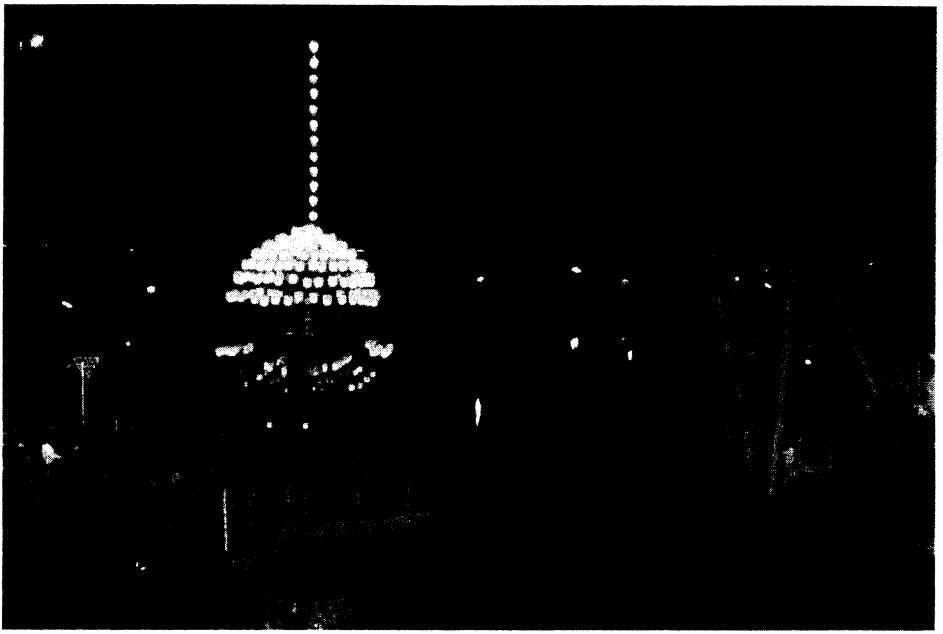
第三十四冊

目次

一　「沿革誌」より……1
二　事業概要……2
三　資料の収集・保管……3
四　展　示……10
五　調査・研究……14
六　情報提供……15
七　教育普及……16
八　庶務報告……23
九　文化財保護……25

重要無形民俗文化財指定記念

特別展 須成祭



平成２４年１０月２７日（土）～１２月２日（日）

午前９時～午後５時　月曜休館　入館無料

場 所　**蟹江町歴史民俗資料館**　企画展示室

蟹江町城一丁目２１４番地　産業文化会館内

TEL/FAX　０５６７－９５－３８１２

主 催　蟹江町教育委員会

＜期間中の催し＞

１１月１８日（日）　午後２時～

記念講演会「山鉾の祭りと須成祭」

講師　全国山鉾屋台保存連合会顧問・元須成祭映像記録製作委員会指導員　植木行宣　氏

開催にあたって

蟹江町北部の須成（すなり）地区で夏に行われる須成祭（すなりまつり）が、平成２４年３月８日、国の重要無形民俗文化財に指定されました。これまで、当館では企画展として須成祭の写真展や、須成の文化財をテーマに特別展を開催するなどしてきましたが、須成祭そのものをテーマに特別展を開催したことはありませんでした。これを機会に、須成祭についての特別展を開催し、祭り道具や衣装、祭の歴史を物語る古文書等を一同展示、公開いたします。この特別展をとおして、須成祭をはじめとした伝統行事についての理解を深めていただくとともに、伝統を受け継いでゆくことの大切さを感じていただければ幸いに存じます。

なお、この特別展開催にあたって、須成祭の保護団体であります、須成文化財保護員会をはじめ、多くの関係機関及び関係者の方々にご協力いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成２４年１０月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

重要無形民俗文化財「須成祭」について

蟹江町北部の須成地区に伝わる須成祭。須成は古くから農業と商業を盛業としてきた地域で、須成祭はこの地区の氏神である冨吉建速神社（とみよしたけはやじんじゃ）・八剱社（はちけんしゃ）両社の祭礼として行われる川祭りです。

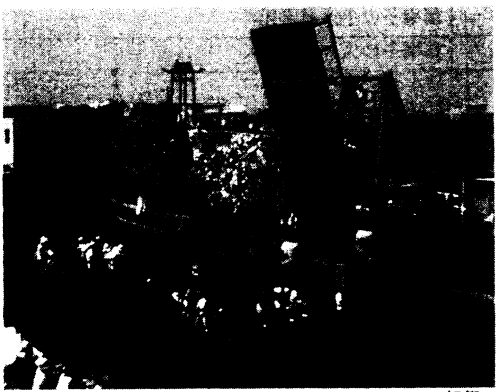
須成祭の起源は定かではありませんが、江戸時代には「富吉天王」とも呼ばれ、津島の天王社とともに夏の疫病退散と五穀豊穣を願う祭りとして行われてきました。その歴史は４００年以上あるともいわれています。

須成祭は別名「百日祭」とも言われ、７月初旬から１０月下旬にわたって数々の祭事が行われています。昭和５３年には、そのうちの１７の祭事が蟹江町の無形民俗文化財に指定、昭和５５年には、葭刈(よしかり)、宵祭（よいまつり）、朝祭（あさまつり)の３つの祭事が愛知県の無形民俗文化財に指定されました。平成１４年には、祭り全体が、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されました。

これをうけ蟹江町教育委員会では、文化庁の補助を受け、平成１８年度から２２年度にかけて、記録作成事業を行い、須成祭総合調査報告書と映像記録DVDを発行し、文化庁へ提出いたしました。そして、平成２４年３月８日、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

指定の概要は、以下のとおりです。

指定名称	須成祭の車楽船（だんじりぶね）行事と神葭流し（みよしながし）
保護団体	須成文化財保護委員会
公開期日	７月初旬から１０月下旬（宵祭・朝祭　８月第１土曜・日曜）
説　明	天王信仰に由来する祭りとして注目され、車楽船の出る優雅な祭りと、ヨシへの古い信仰を伝える神葭流しの二つの要素を伝えるとともに種々の行事が長期間行われることは貴重で、我が国の夏の祭礼やその変遷を理解するうえで重要である。

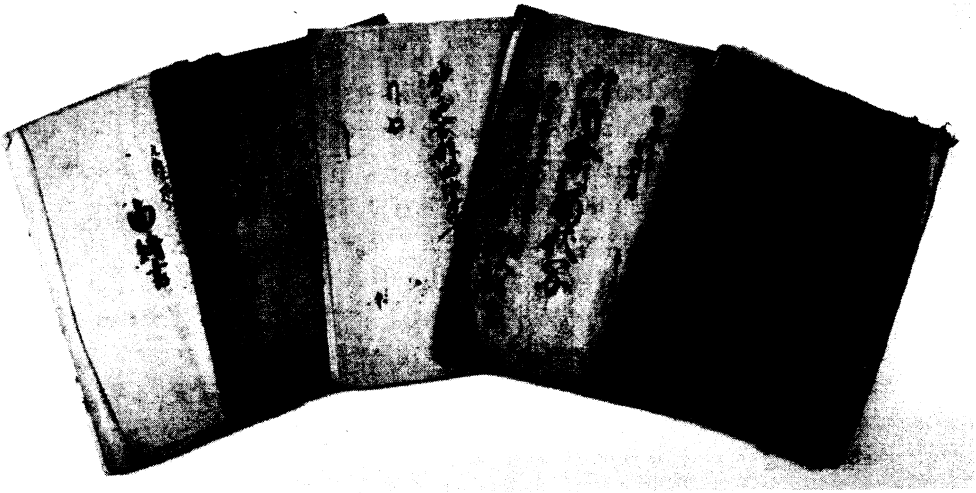


朝祭

神葭流し

蟹江町歴史民俗資料館特別展

尾州蟹江本町村 鈴木家（現蟹江家）資料展



鈴木家文書

平成25年2月23日（土）～3月23日（土）

月曜休館　　午前9時～午後5時

場　所　蟹江町歴史民俗資料館　1階　企画展示室

（蟹江町城一丁目214番地）

主　催　蟹江町教育委員会

問い合わせ　生涯学習課歴史民俗係（歴史民俗資料館）

TEL/FAX　0567-95-3812

特別展開催にあたり

平成２３年（２０１１）１１月、名古屋市千種区の蟹江家（旧鈴木四郎左衛門家）当主である浩嗣様から江戸時代から明治時代にかけての古文書を中心とした資料約６００点余が当館に寄贈されました。

旧鈴木家四郎左衛門家（以下「鈴木家」という）は、明治初期に「蟹江」と姓を改めましたが、代々「鈴木四郎左衛門」を襲名し、蟹江本町村（現蟹江町城）に屋敷を構えて、海部郡南部の新田開発と経営に携わり、木曽木材の留木御用を尾張藩から拝命するなど海部郡内随一の名家として知られています。

鈴木家が蟹江本町村に永住する契機となったのは、天正１２年（１５８４）の蟹江合戦で、重安・重治兄弟が徳川方で奮闘し、家康から戦巧を賞せられ、合戦後の居宅再建の際には、合戦の戦利品である九鬼軍船の良材を賜ったことに始まります。

以後、家康との縁もあり、尾張徳川家藩祖義直、その子光友から特に厚遇され、特に第五代重直の時代には、鳥ヶ地前新田（現弥富市桴場地区）の新田開発に乗り出し、藩命により留木御用を仰せ付かり、以後筏川流域で「留木裁許人」を世襲するなど、飛躍的に勢力を拡大する礎を築きました。

鈴木家は、代々、「御目見」（年初の藩主への挨拶）なども許されるなど御家人同様の権威を持ちながらも仕官しない立場を継承し、明治を迎えました。

明治以後、鈴木家は「蟹江」と姓を改め、蟹江史郎氏が貴族院議員に就任するなど、大正・昭和にかけてもこの地域の名望家でした。

今回、特別展では鈴木家の歴代の事績を記した「由緒書」のほか、新田開発及び経営に関する文書、鈴木家が管理した人々の生活に関する「宗門改帳」、「公儀触並び願書」を始めとする古文書資料や当館に同家より寄託収蔵されている、藩から所持を許された武具・武器類や拝領の品々、馬具や駕籠、調度品、歴代主の趣味を垣間見る事ができる趣向品などを中心に展示しました。

今回の特別展開催にあたり、貴重な歴史資料をご寄贈賜りました現蟹江家当主浩嗣様、そして当館の事業活動にご理解を示していただき、資料寄贈を提案していただきました先代故亮一郎様に対しまして、ここに厚くお礼申上げます。

平成２５年２月

蟹江町歴史民俗資料館

1　尾州蟹江本町村鈴木四郎左衛門家と蟹江の関わり

江戸時代の蟹江本町昇平橋付近「尾張名所図会」の文中では鈴木家の由緒が記載されている

江戸時代から海東郡蟹江本町村（現在の海部郡蟹江町城）に居宅を構えた鈴木四郎左衛門家（以下「鈴木家」という）は、江戸末期、第十一代四郎左衛門重声が尾張藩に提出した「由緒書」及び大正時代の「郷社神明社昇格紀念帖・鈴木系抜鈔」の記述によれば、先祖は紀伊国藤白（現和歌山県海南市にあり藤白神社は全国の鈴木氏発祥の地とされている）に住して穂積氏（後に鈴木氏）を称し、南北朝時代に南朝側の忠臣として活躍した楠木正儀を始祖とする。

戦国時代になると紀伊国から伊勢国（現三重県）に移り、四郎左衛門盛重の代には三河国（現愛知県東部）に拠点を構えたようである。なお、「鈴木家抜鈔」には、「三州堺村」と記述されているのだが、その正確な地域については不明である。

その子五郎兵衛重宗の代に至り、織田信長に仕えるため尾張国を訪れ、外戚である佐久間駿河守信正を頼り、天正１０年（１５８２）年に蟹江本町村へ移り住んで蟹江城主佐久間正勝に従った。戦国騒乱の風雲を望んで流転の末、蟹江に土着した重宗は、鈴木家にとり「中祖」として位置づけられている。

鈴木家にとって転機となった事件が天正１２年の「第四次蟹江合戦」であった。この戦いは、天正１０年の織田信長死後、天下統一をめぐる争いであった「小牧・長久手の戦い」で惨敗を喫した豊臣秀吉（当時は羽柴秀吉）の雪辱戦として行なわれた戦